



地域で、みんなで、サステナブルな四国を！ ～SDGs達成につながる実践と連携～

よろしく
お願いします！



2023/2/22@高松
第2回ローカルSDGs四国表彰式

一般社団法人 環境パートナーシップ会議
副代表理事 星野 智子

お話しする内容

- ①SDGsの捉え方・活用方法
- ②活動のヒント・パートナーシップ
- ③世界と地域
- ④今年のトピック（G7）

<星野智子 自己紹介>

これまでに環境・開発に関する国際会議や「国連持続可能な開発のための教育(ESD)」の推進、生物多様性COP10やG7サミット、環境大臣会合等における環境NGO活動をサポート。ボランティア活動では全国的环境ユースネットワークづくりやイベント時のごみゼロ運動の仕組みを創出（A SEED JAPAN、エコ・リーグ）。現在(一社)環境パートナーシップ会議の副代表理事、NPO法人アフリカ日本協議会、(一社)海外環境協力センター、“有機の里づくり”千葉県団体連絡会の理事などを務める。千葉市出身。地元ではビーチクリーンやSDGs学習会、町内会活動を行っている。



＜パートナーシップ構築に向けた対話の場づくり＞

NGOと政府の意見交換会→



環境大臣への提言書提出↓



NGOミーティング



直近20年間の気候関連の災害
による被害額は、合計2兆
2450億ドル。その前の20年
間に比べ2.5倍に

⇒「気候変動」から
「気候危機」へ。

食糧増産しても、自然災害で農業に打撃
健康を守っても、異常気象で健康被害が起こる

病院をつくっても・・・学校をつくっても・・・
→ 流される、壊される・・・

気候危機！

日本でも自然災害が多発

国連の新目標:SDGs

(Sustainable Development Goals:エス・ディ・ジーズ)のエッセンス

- 我々の世界を**変革**する ～**Transforming** Our World～
- SDGs提案の背景:人間の生存はあくまで健全な地球環境が基盤。持続可能性の観点を開発目標に組み込む必要性。**(サステナビリティの追究)**
- 17テーマ、169項目で構成。**(多くの意見を反映)**
- 5P(人間、豊かさ、地球、平和、**パートナーシップ**)
- 「**誰一人取り残さない**」という考え方が基本。
- すべての国及び**ステークホルダー**に役割がある。



ここが大事！

SDGsのウェディングケーキモデル

人間社会と経済活動の
持続可能性は**地球環境**に  支えられている

Cremony
Good Food, Good People





森

農山漁村

自立分散型社会
(地域資源【自然・物質・人材・資金】の循環)

地産地消、再生エネルギー導入等



◆自然資源・生態系サービス

- ・食料、水、木材
- ・自然エネルギー
- ・水質浄化、自然災害の防止 等



里

都市

自立分散型社会
(地域資源【自然・物質・人材・資金】の循環)

地産地消、再生エネルギー導入等



海



川



◆資金・人材などの提供

- ・エコツーリズム等、自然保全活動への参加
- ・地域産品の消費
- ・社会経済的な仕組みを通じた支援
- ・地域ファンド等への投資 等



目標 11

だれもがずっと安全に暮らせて、災害にも強いまちをつくろう

11-1 住むのに十分で安全な家に住むことができ、基本的なサービスが使えるようにし、都市の貧しい人びとが**住む地域の状況をよくする**。

11-2 女性や子ども、障害のある人、お年寄りなどに配慮し公共の交通手段を広げるなどして、すべての人が**安全に交通手段を使える**ようにする。

11-3 だれも取り残さない持続可能なまちづくりをすすめる。だれもが**参加できる形でまちづくりを計画し実行**できるような能力を高める。

11-4 世界の**文化遺産や自然遺産を保護**し、保つていくための努力を強化する。

11-5 水害などの**災害によって命を失う人や被害を受ける人の数を大きく減らす**。GDPに対して災害が直接もたらす経済的な損害を大きく減らす。

11-6 大気の水質やごみの処理などに特に注意をはらうなどして、都市に住む人が**環境に与える影響を減らす**。

11-7 だれもが安全で使いやすい**緑地や公共の場所**を使えるようにする。

11-a **都市部とそのまわりの地域と農村部**とが経済的、社会的、環境的に**うまくつながりあう**ことを支援する。

11-b 気候変動への対策や災害への備えをすすめる総合的な政策や計画をつくる。あらゆるレベルで災害のリスクの管理について定め、実施する。

11-c 開発の遅れている国ぐにで、その国にある資材を使って、持続可能で災害にも強い建物をつくることを支援する。



目標 12 持続可能な消費と生産 のパターンを確保する



12.1	持続的な消費と生産に関する10年枠組みプログラム(10YFP)を実施し、すべての国々が対策を講じる。
12.2	天然資源 の持続可能な管理および効率的な利用を達成する。
12.3	世界全体の一人当たりの 食品廃棄物 を半減させる。
12.4	化学物質 やすべての廃棄物の環境に配慮した管理を達成し、大気、水、土壌への排出を大幅に削減する。(2020年まで)
12.5	予防、削減、リサイクル、および再利用(リユース)により 廃棄物 の排出量を大幅に削減する。
12.6	企業 に対し、持続可能な慣行を導入し、定期報告に持続可能性に関する情報を盛り込むよう奨励する。
12.7	持続可能な 公共調達 の慣行を促進する。
12.8	持続可能な開発および自然と調和した ライフスタイル に関する情報と意識を持つようにする。
12.a	開発途上国に対し、 科学的・技術的能力 の強化を支援する。
12.b	雇用創出、地元の文化・産品の販促 につながる持続可能な 観光業 にもたらす影響のモニタリングツールを開発・導入する。
12.c	破壊的な消費を奨励する非効率的な 化石燃料 の補助金を合理化する。その際は貧困層や対象 コミュニティ を保護するようにする。

SDGsに関わる必要性

SDGs時代
既存のあり方を壊し、
ビジネスで何ができるか、
考え・創造する時代へ

社会・経済システムの文明史的変革期

Transforming our world・・・(SDGsの方針)

社会の変化

大量生産・大量消費のワンウェイ経済社会から

「循環型・持続可能な社会」へ

「物質的欲求」から「質的欲求」

「私有」から「共有」へ（シェアリングエコノミー）

さらに・・・

新型コロナウィル
ス感染症で経
済も社会も壊れ
始めてしまった！

さらに・・・

ウクライナ危機
すべてを破壊す
る戦争が始まっ
てしまった！

投資家・株主の変化

ESG投資（環境や社会課題に対応していない会社には投資しない方針）

※ESG：「環境（Environment）」「社会（Social）」「ガバナンス（Governance）」

“イメージアップのため” だけでは評価されない。続かない。生き残れない。

Transforming our world.. 例えば・・

発電所をレクリエーション施設に



コペンヒル(デンマーク)

捨てないラップ



～SDGsの活用方法、捉え方～

- 自治体・企業・NPO、全ステークホルダーの“共通言語”
- 社会にある問題の全体像をつかもうとする時に参考にする。
- 取組んでいる活動や関心ごとが他の社会、世界とつながっているという実感がもてる。
- SDGsは社会課題の百科事典
- 活動のパートナーを増やす機会となる。
 - 環境×福祉×教育×災害×健康×安全
 - 気候変動×自然保護×廃棄物
(例：プラスチック問題)

みんなで
解決しよう！

地域の人たちとできること

- 子ども・家族の健康を守る(衣・食・住)
- 地域の現状を伝える、話す(貧困、アレルギー、虐待 etc.)
- 自然環境を増やすよう要請する(市や企業、議員へ)
- SDGs、地域づくりに取り組む議員を選ぶ
- 女性がもっと活躍できる場を提案する(男性の変化を応援する)
- 環境・社会に配慮した商品、地元産品を買う・作る
- 楽しむ！笑顔でいられる空間・機会をつくる

ところで、理想の社会とは？ どんな社会を持続可能にしたいですか。

- ・水・空気がきれい(肌に影響大)
- ・トイレなど衛生管理が充実
- ・学習・学びの機会が多い
- ・おいしいものがある(もちろん安全な)
- ・戦争がない(武器に興味がない)
 - 女性が暮らしやすい世界

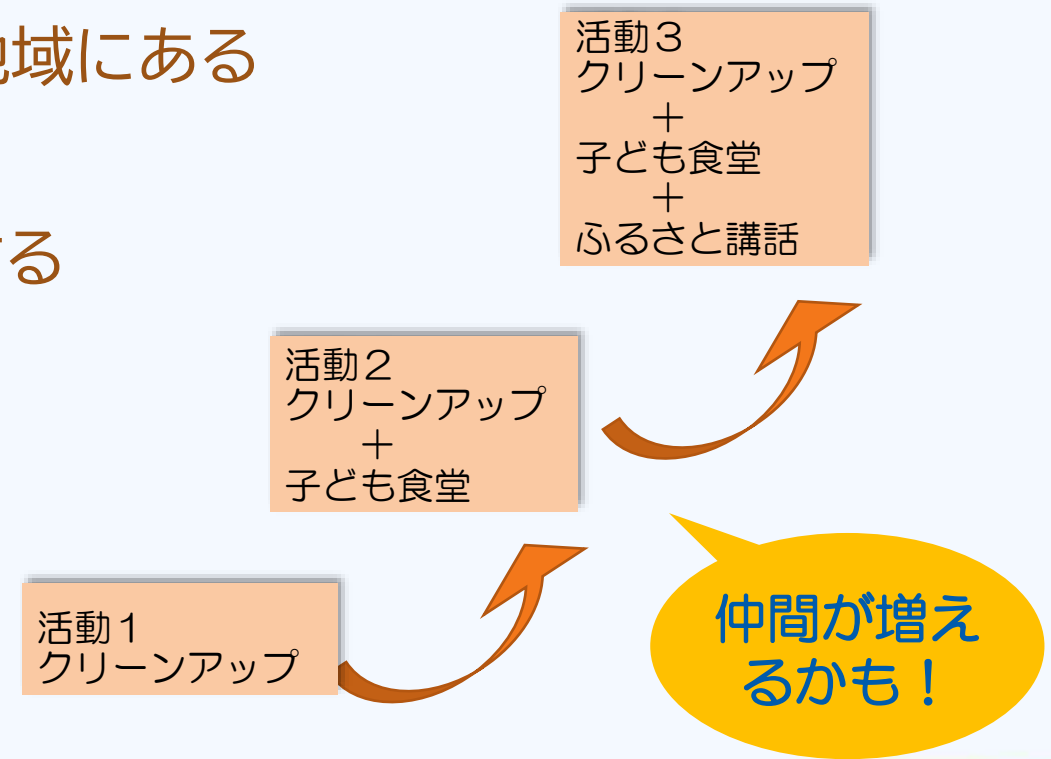
自分が“暮らしやすい”、
“気持ちイイ”を続ける

→ でも“自分の家で”だけではなく、
“地球に”住んでいるという感覚で。
街でも自然の中でも。

人に、森に、鳥に、街に、未来に、
“思いやり”をもっている人
を増やしましょう

ローカルSDGsにつながるような、課題解決・行動を進めるためのアクションのヒント

- すでに行動している人は今やっていることの振り返りから。
- 一つのテーマを入り口に課題を掘り下げる。地域にある資源をもう一度見直してみる。
- 周囲の人、仲間の関心内容を共有して、共通する将来像を描く。
- 今までの分野では出会わなかった人たちとの出会いやアイデア、資源を活用する。



今後の注目課題・キーワード

・ネイチャーポジティブ(NP)

生物多様性と自然資本から生み出されるさまざまな恩恵(生態系サービス)は社会や経済の基盤であることから、「生物多様性の保全を含む自然資本の回復」が、環境サステナビリティの分野で注目されている。

・Nature-based Solutions: NbS(自然を基盤とした解決策)

国際自然保護連合(IUCN)と欧州委員会が定義を発表した比較的新しい概念で、グリーンリカバリーの中でも重要な位置づけ。
国連気候変動枠組条約と生物多様性条約でも定着しつつある概念



気候変動(CC)と、サーキュラーエコノミー(CE)と同時解決・実現する時代へ..

・プラネタリーヘルス(Planetary health)

地球の健康の悪化は、同時に人間の健康を損なうことにもつながる。たとえば、非伝染性疾患、感染症、メンタルヘルス、低栄養、内戦と強制退去など、人間の健康に対してもさまざまな悪影響がある。

課題例:プラスチックによる地球と生態系の健康状態の悪化

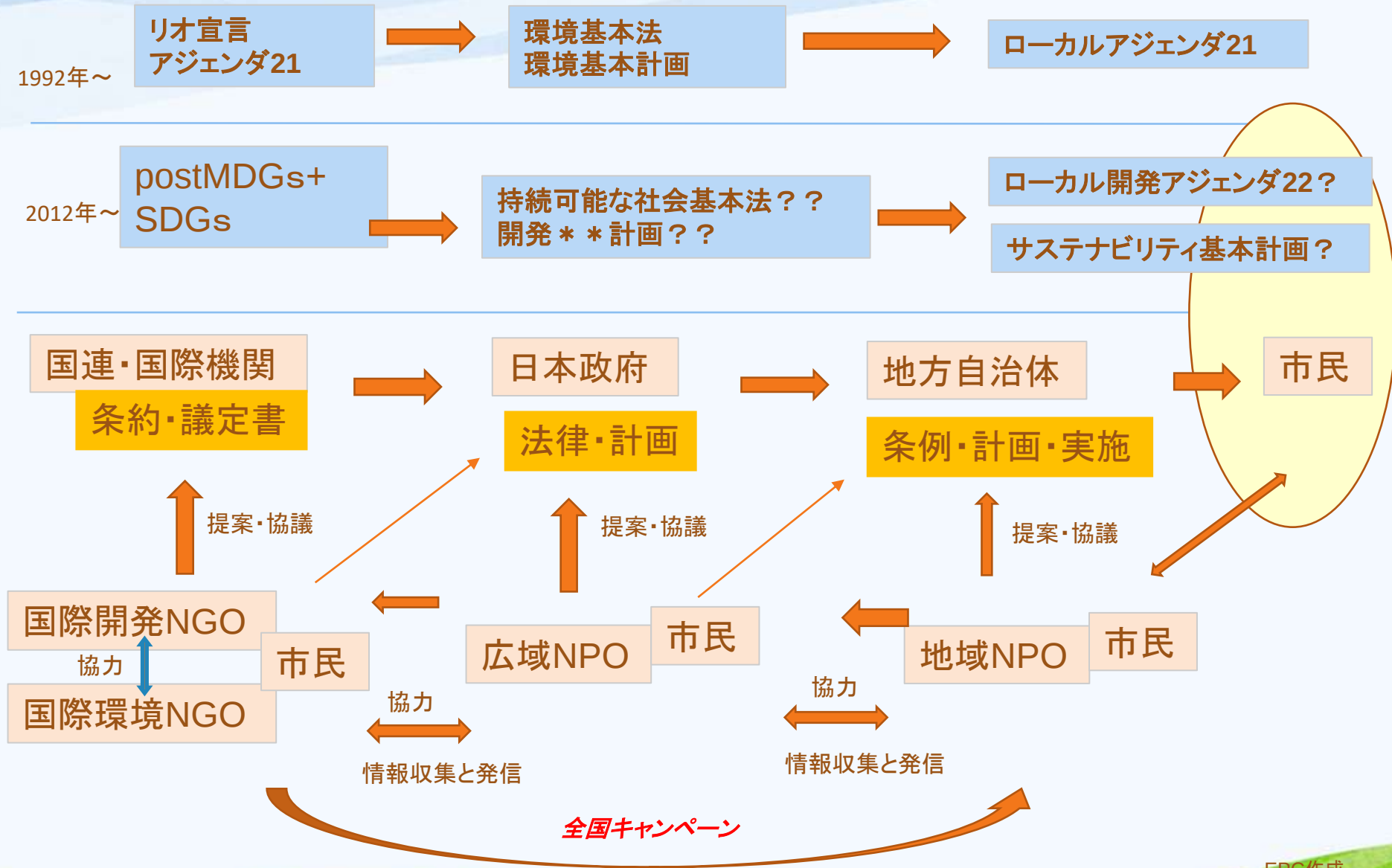
プラスチックの破片から有害物質が地下水に溶け込んで海に流れる/
海に流れたプラスチックは太陽光などで微粒子となり、魚が餌と間違えて摂取

解決策:「プラスチック銀行」

地域住民がプラスチックを拾って持っていくと、現金や子どもの学校の授業料などと交換ができるというもの。



ローカルとグローバルのつながり



どう
取り組む？

多様な主体と

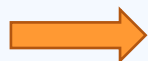
- 地域の全員に関わること。
- 役割分担。資源を出し合う。

パートナーシップで

- 1人、1組織、1セクターでは解決できない。
- 相乗効果を上げていかないと間に合わない。
(課題の複雑性、深刻性に対応)



- My SDGsづくり
- 地域円卓会議の推進



自分の地域や学校、職場で・・・
目標を考え、誰と何ができるか、考えてみよう。



これに取り組むことが
ESD (Education for Sustainable Development
: 持続可能な開発のための教育) に

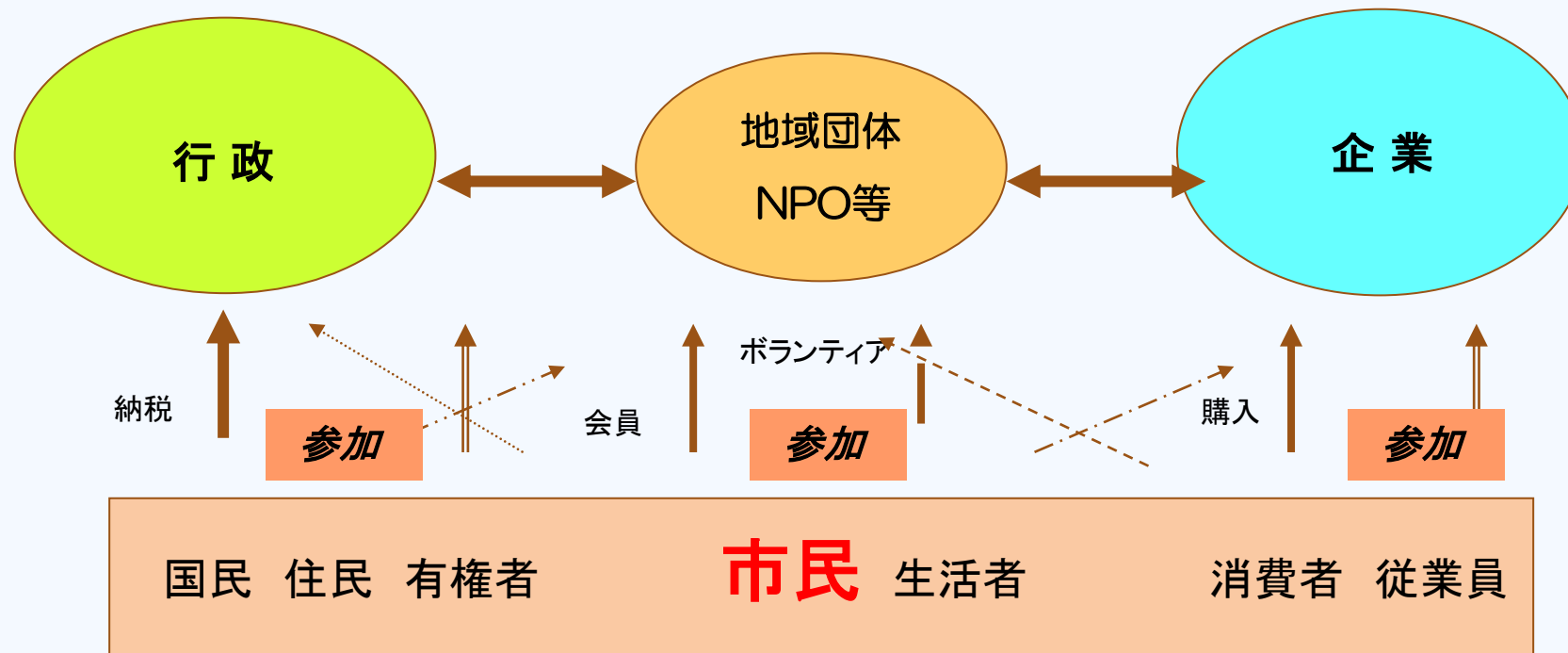


持続可能な地域づくりに



“市民”は多様な役割をもつ

役割を活かしながらさまざまなステークホルダー
とのパートナーシップをつくろう



SDGsが書かれている国連文書

持続可能な開発のための2030アジェンダ

前文)

(中略)すべての国及びすべてのステークホルダーは、協同的なパートナーシップの下、この計画を実行する。我々は、人類を貧困の恐怖及び欠乏の専制から解放し、地球を癒やし安全にすることを決意している。

(中略)我々はこの共同の旅路に乗り出すにあたり、誰一人取り残さないことを誓う。

冊子の紹介



SDGsで地域の環境を守ろう

SDGsに取り組むことによってNPOの活動の活性化やパートナーシップの促進に活用いただけるよう作成しました。SDGsを共通言語として他セクターとの協力・協働事業を探り、社会の持続性だけでなく、組織の運営や経済的自立につながるように活用されることを目指しています。



ダウンロード
可能

<http://www.geoc.jp/information/report/>

G7広島サミットは「対話のチャンス」！

* 7つの「エンゲージメントグループ」
がG7に対して政策提言を行う

* C7は6つのワーキンググループ（WG）
が政策提言書を作成



- ・ 首脳会合
- ・ 閣僚大臣会合
- ・ シェルパ会合
- ・ 分野別作業部会



* C7には
世界中の
市民社会が
参加

* C7の事務局は
「G7市民社会コアリション2023」が務める



Action 2 (案)

ローカルとグローバルを繋ぐ視点から、
私たちの課題解決に向けた取組や仲間を広げる！

(2-1) ワークショッ
プの開催

G7サミットの主要課題テーマについて基礎知識を身につけるとともに、世界・社会・地域の課題解決に向けた学びあいや共創を育む。



(2-2) 連携・支援体
制の構築

国・地域・立場・世代の垣根をこえた参加を促進するため、NPO支援センターやネットワーク組織、助成機関等の連携・支援体制を構築する。



(2-3) 政策コミュニ
ケーション

政府にC7を認めてもらうことを通して、それらに繋がる活動についても、各地の自治体からの賛同や支援を促すコミュニケーションを図る。



Action 3 (案)

グローバル・ガバナンスを政府と市民社会の両面から構築することで、
核兵器のない持続可能な社会づくりを加速させる！

(3-1) G7広島サミットへの提言

C7のワーキンググループ・サミットへの参加や提言を通して、G7サミットに市民社会の声を届け、よりよい政策決定を促す。



(3-2) 市民社会サミットの開催

開催地である広島に日本全国・世界からの市民社会組織が集い、G7サミットの主要議題に関する意見交換や学びあい、今後に向けた関係構築を図る。



(3-3) 日常の取組へのフィードバック

G7広島サミットに係る取組の結果やプロセスについて、その成果や課題について取りまとめを行い、それぞれの日常の取組や次なる関連サミットにフィードバックする。



これから各地域で変革を担う方たちに求められること

- SDGsの精神（5Pに関わる社会課題とそのつながり）を伝える。
（人間、豊かさ、地球、平和、**パートナーシップ**）
- 問題を俯瞰し、多くの人が参加できる仕組みを示す。
- 市民力・参加の機会づくり、ステークホルダー連携の促進
- 地域の資源（人的資源、文化的資源、自然資源）を守る
- 組織・団体の持続可能性を考える
（共感を募り、支持者・支援者を増やす、次世代を育てる）
- 楽しむ！（一緒に活動したら面白そう、と思われる存在）

2030年まで
のアクション
がカギ！

SDGs時代、未来に向かって、
元気にみんなで取り組みましょう！



S 四国中の
D 誰もが幸せ感じる
G 元気な地域を！

ご清聴ありがとうございました。

星野智子 hoshino@sdgs-japan.net

